

はじめに

日本は、独特な高密度社会を築いている。この高密度社会の中において人々は、生活を持続して行く上で種々の問題に当面している。特に過密と言われる東京圏－東京区部では、通勤、通学時の交通混雑（山手線における混み合いについての研究 第一住宅建設協会 調査報告書 1989年）や住生活に、これが典型的に現れている。本報告書は、都市生活の密度研究の一環として、住生活の密度について提案を含め、考察したものである。

本調査にご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

平成 3年12月

研究代表者 早稲田大学理工学部建築学科教授
戸沼 幸市

研究協力者

佐藤 滋	早稲田大学理工学部建築学科教授
Achmad Hery Fuad	// 戸沼研究室修士課程 1 年
池田 賢	// //
落合泰弘	// //
熊丸博昭	// //
佐々優子	// //
藤掛正隆	// //
松本泰生	// //
早田 宰	// 佐藤研究室博士課程 1 年
遠藤 肇	// 修士課程 2 年
樋上 岳	// 1 年
相羽真知子	// 戸沼研究室個人助手